

事業所自己評価結果

今年度の事業所自己評価は、職員一人ひとりが
自事業所の支援や運営に向き合い
わかっている事とできていないと感じている事を
率直に出し合ったものをまとめました。

日々、伝えていると思っていたことが
周知されていない事柄も多く
これからの事業所運営と情報の共有に大きな
課題が見えた結果となりました。
そして、事業所の強みもはっきりとしたことは
大きな収穫と感じています。
来年度も、職員一丸となって、風通しの良い
職場を継続できるように努めてまいります。
一年間、ありがとうございました。



2020年度 1月現在

		チェック項目	はい	どちらでも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	1		・学童保育との交流をすると40名ほどの人数が集まってしまう為、手狭になるが活動の工夫や個別対応により2つの部屋を有効に活用している
	②	職員配置数は適切であるか	8	1		・人員配置を守り運営している ・児童指導員等加配加算を適応している為、基準よりは多少多めの配置をとっている
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	8	1		・車いすで使用できるトイレを完備、階段やロビーには手すりが設置されている ・児童はらせん階段を使っているが足を怪我している保護者や妊産婦等階段を使用する事に困難が生じる場合はエレベーターの利用の相談を受け付けている
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	8	1		・全体のお出かけの計画は常勤職員が中心に下見や計画を担当するが、ミニサークルや避難訓練等はパート職員も参画をしている ・行事計画は職員が原案を作成し、ミーティング内で話し合いをもって決めていく、また、実行後には各自で振り返りを行い、ミーティングで次の方向性を確認している
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9			・ミーティング内で保護者アンケートの結果を検証し、事業の見直しをするために活用している ・具体的に家庭支援について皆で考え、行事等で事業所の取り組みをわかりやすく伝えていく工夫をすることにつながった
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	3		・しているが、職員間でその情報の共有がなされていないことが大きな反省
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	4	3	・今後も外部評価を受ける予定はないが、地域の人や外部のアドバイザーがいる事で支援についての助言はもらえている
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9			・適時、研修に参加している、内容については、報告書を作成すると同時にミーティングで報告する ・研修の報告会を開き、法人内の他事業所間で勉強する事もある ・参加研修⇒「セラピューテックホール」研修「強度行動障害基礎研修フォローアップ」「権利擁護」「困難事例に関わる支援」「応用行動分析の視点で考える」「感染症予防」「施設間交流研修」

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	9		<ul style="list-style-type: none"> ・個々のストロングポイントを大切にした個別支援計画を作成している ・支援計画の原案をもとに支援者会議を開き決定するという工程を大切にしている ・本人の思いを聴きとる為に1対1の個人面談を行い本人がわかりやすい方法で思いを聴きだし、支援計画に反映させている
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・初回のアセスメントは、保護者からの聴き取りと本人とのやり取り、また学校や保育園などの見学も行いできる事、興味のある事、苦手なこと、障がい特性を評価し所定の用紙に落とし込み職員で共有している
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	9		<ul style="list-style-type: none"> ・行事やイベントだけではなく、各係が担当者となって「おやつ」「〇〇講座」「避難訓練」等、子どもたちの生活が豊かに安全になる為の活動を推進している
	⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事や「食」を通してのさまざまな活動が用意されている・田浦梅林をはじめとするキャンプ場や裏山のハイキングなど、事前の中に身を置く体験をたくさん揃え、一年を通して野外活動に力を入れている ・夏にはミニサークルを行い、手芸や料理、ダンスやボランティア体験等も計画している ・「チャレンジクラブキャンプ」「茶道クラブ」「太鼓クラブ」といった希望者のみのクラブ活動が有、自主性を大切にしながら活動をしている
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のミーティングにて子どもの様子を確認している為、個々の課題やストロングポイントに応じた関りについて共通認識ができている ・長期休業期間の前のミーティングでは改めて大まかな課題や配慮事項を確認する事が通例となっている
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	9		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活の場は学童保育で行っているがクールダウンが必要な場合や静かな環境が適しているとアセスメントした場合は個別対応で環境設定を整えている ・部分緘黙の児童については本人が必要としているコミュニケーションカードを本人と共に作成して日常の中で活用できるように促し、自己決定支援につなげている ・野外活動を積極的に取り入れ、火おこしや調理活動も取り入れている
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・時間差でのシフト制に対応し、皆が確認できるスケジュールや詳細が記入されている為、各自でも把握しやすい ・その日の個別配慮事項や継続しているヒヤリハットを「1日メモ」に書き込み、共通の視点や配慮をもって支援にあたるように工夫されている

適切な支援の提供	⑩⑥	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか	7		2	<ul style="list-style-type: none"> ・シフト制なので、支援終了後に集まって振り返りは行わないが、業務日誌を通して情報共有を図る取り組みをしている ・常勤を介して共有している ・出勤日以外の業務日誌を読む習慣が確立しており、その中で情報共有できている
	⑩⑦	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・記録時間は10～15分を目安に全員のスタッフが記入することになっている、また、全日の記録を必ず目を通す習慣があり、しえんが継続的に行われる仕組みがある・業務日誌には「家庭からの連絡」「ヒヤリハット」「ニコリハット」「個々の様子」を書き込む欄があり、それはみんなが目を通して日々の支援に活用している
	⑩⑧	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画に見直し必要性を判断しているか	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングは半年に一度行っている・夏季休暇の前などには子どもの様子と支援について確認する事を行っている
	⑩⑨	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・「学齢期の子どもの健全な育成を図る」という考え方を常に念頭に置いたプログラムを個々の支援に取り組んでいる ・共生社会の実践の場であることを特に意識している「地域との交わり」「休業に日外出」「学童保育、保育園との交わり」等々、様々なプログラム展開を心掛けている ・職員が制度や事業の目的を更に知り、更に意識して対応できるようにしていく必要がある
関係機関や保護者との連携	⑩⑩	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・管理者やサビ児管だけではなく担当職員も同席してケア会議を行うことがある
	⑩⑪	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・市内の6校から事業所に来館している ・各小学校から年間予定をもらうことは勿論だが、その他にクラスよりも家庭の了解を得て提出してもらっている ・宿題の内容や下校時間の確認などに直接学校に連絡をしている事と、授業参観や学校行事などにも家庭との合意の基で参加させてもらっている、子どもを多角的に捉えて支援に役だてている
	⑩⑫	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・現在医療ケアの必要があるお子さんを受け入れていないが、そうなったときには適切に対応する心づもりがある
	⑩⑬	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・利用前には管理者、サビ児管、担当者が利用前の所属施設に見学を申し入れ、直接その児童の様子をアセスメントさせてもらっている、更に担当者との話し合いから支援の見通しや個別配慮について確認をしている

関係機関や保護者との連携	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービスから所外福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報提供する等しているか	8	1	・当事業所は小学生までが対象であることから、中学校からの放課後の過ごし方を保護者と一緒に確認したり、必要があれば放デイの紹介や見学に向けた調整と付き添いも行っている	
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	1	・福祉分野の大学の先生に子どもの様子をみていただき、パート職員を含めた全スタッフでフィードバックをしていただく機会がある ・一人ひとりの職員が、1年に1回は外部研修に参加して専門的な学びを深めている ・他事業所と連携して合同の研修報告会を開催し、連携を図っている	
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	8	1	・日々交流があり、お互いに子ども同士の関りを多く持っている・日常の生活から交流があり、互いに違いを認め合う関係性の構築を継続的に働きかけられる間柄である・行き違いもあるが、いくつものトラブルを乗り越えて関係性が深まるように支援をしている	
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参画しているか	2	6	1	・話し合いに参画はしていないが、協議会主催の研修会には積極的に参加している
	②⑧	日ごろから子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	9			・連絡帳の活用により家庭からの連絡と事業所からのお知らせ及び子どもの様子の伝えあいをすることができている ・連絡帳だけでは伝わらない内容については電話連絡とメールも利用しながら情報共有を取る仕組みが確立されている
	②⑨	保護者の対応能力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	5	4		・ペアレントトレーニングのクラスは開講していないが、送迎の際のやり取りからそれに準ずるような働きかけを個別に行っている ・子どもの様子から、拘りに関する対応や身支度等の生活習慣についての環境設定などを提案し、子どもがより分かりやすい中で生活できるような家庭支援を継続している
保護者への説明責任	③⑩	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9			・利用の開始にあたり、個別の契約時に2時間程度をかけて説明を行い、質問に応じて疑問や不安なく利用できるように配慮している ・新年度の始まりには「放課後等デイサービス・きりんグループのお約束」という冊子を用いて全家庭に向けて説明会を行い、事業の方針から利用料、第三者委員の紹介等を行う事で安心して利用してもらえるように整えている
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9			・「伝えあい」を大切にしている為、自事業所での送迎は行っていない為、お迎えの時を利用して直接顔をあわせて、その日の様子を伝え、保護者の思いを聴きとるように心がけている

保護者への説明責任

③②	父母の会活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・学童と合同の保護者会があり、行事や活動を支援してもらっている、放デイの保護者については「正規会員」と「準会員」を選べる規程があり家庭状況により参加内容は選べる仕組みとなっている ・放デイだけのプログラムで「大人の茶話会」「親子おやつ作り」「施設見学会」などを開催している
③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・苦情対応についてのマニュアルが整備され、第三者委員の設置や行事の時には紹介をするなどの工夫もしている
③④	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	3	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・会報はないが行事ごとに写真を貼りだし、子どもの様子を知る事がしやすい工夫がある、また、写真を貼りだした際には保護者にメールでお知らせするようにしている ・保護者への連絡は手紙の他メールも活用している ・毎月の様子と次月の行事予定は「利用希望日」の申請用紙にてお知らせをしている
③⑤	個人情報に十分注意しているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・児童の個人ファイルは事務室内の扉付きの棚に保管されている ・個人情報の取り扱いについては使用目的も含めて利用開始時に所定の用紙にて説明し署名捺印をもらうようにしている
③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の作成にあたっては、本人とも面談を行い「思い・希望」を聞き取るようにしている、その際にはYES・NOで意思表示ができるように選択制にして意思確認をする等の配慮を行っている ・筆談、コミュニケーションカードを用いて本人が意思表出できるツールを模索している ・日々のスケジュールや身支度の手順はホワイトボードを利用して可視化して提示する事で本人が主体的に生活を進めていける支援環境を整えている
③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	8	1		<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会にはボランティアや地域の見守りをしてくださっている方を招待して、子どもたちの成長と一緒に喜び合い、行事の楽しさを共有している ・ハロウィンイベントでは地域の商店に協力してもらいお菓子をいただきにあげる交流を持っている ・日常の散歩での積極的な挨拶により、お互いに顔の見える関係がある
③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8		1	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルは整備されているが、保護者に周知するには至っていない ・防災避難チャートは支援室に大きくして貼りだし、子どもたちにもわかりやすく提示している(防犯マニュアルに関しては未作成)

非常時等の対応	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そのほか必要な訓練を行っているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の消火避難訓練は年に2回実施 また、事業所としても安全係を中心に年に4回の防災避難訓練を実施している(火災と地震) ・避難先で炊き出しを想定した非常食を食べることや発生時間も様々な想定の中で経験できるように工夫をしている
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・2月には『虐待防止研修』を行い、意識向上を図っている ・ヒヤリハットを職員で共有する事で適切な支援を日々心掛ける意識を高め、適切な支援を目指している
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・該当者がいない ・今後そのようなケースがあった場合には個別支援計画に明記して保護者に説明をする事を心に留めている
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	4	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ提供がある為、保護者からはアレルギーの有無について確認をする書類が整えられているが、医師の指示書の提出は求めておらず今後の課題と考えている
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌にヒヤリハット欄があり、日々記入している ・日誌内の記述からヒヤリハットとコリホットを抽出しマーカで印をつけ、支援の意識化を図っている ・ヒヤリハット集はあるが月毎でまとめる事ができていない状態